



マスターズアルペンスキー選手の 特徴について（第1報） —性別，年代別，地域別の競技人口の実態—

至学館大学短期大学部 山根真紀



【背景】



- スキー人口の減少
 - レジャー白書：1993年の1860万人をピークに2011年には970万人まで減少
- 競技スキー人口の減少
 - アルペンスキー部門の登録者数は2001年から2006年の6年間で3683名から2411名へ35%減少（全国高等学校体育連盟スキー専門部統計）
- マスターズスキー人口は ???



【マスターズスポーツとは】

「過去や現在のスポーツキャリアにとらわれず，成人・中高齢者の個々人が，自己のスポーツ意欲や技術の向上，競技する楽しみ方を成熟・熟達化させていこうとするスポーツライフ」（長ヶ原）

【マスターズ大会】

<競技別>

陸上競技 水泳

テニス

バドミントン

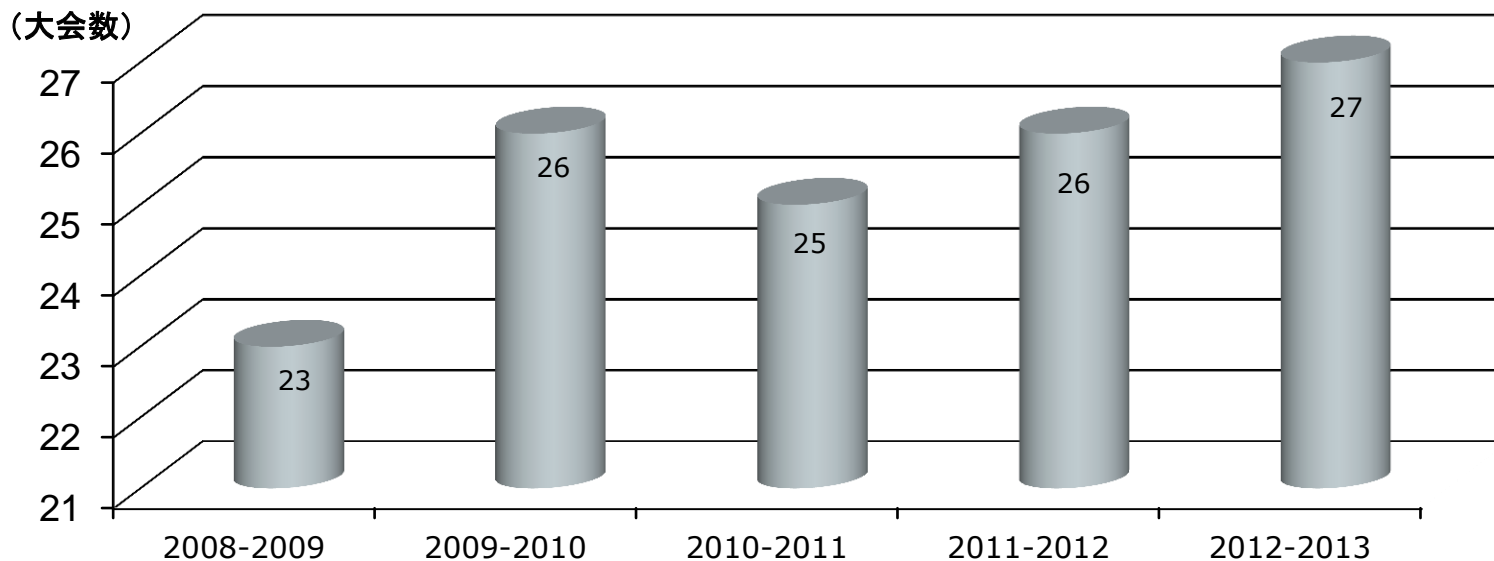
<総合大会>

- ねんりんピック
- 全国スポーツ・レクリエーション祭
- 日本スポーツマスターズ

マスターズスポーツ愛好者の増加



2012年12月22日 秋田八幡平大会スタート付近
2012-2013シーズンの第1戦秋八では珍しく2日間とも比較的
いい天気でのレースでした。スタート付近の天候も穏やかで選
手もレースに集中できたようです。（約100名が参加）
東北マスターズスキー大会実行委員会HPより

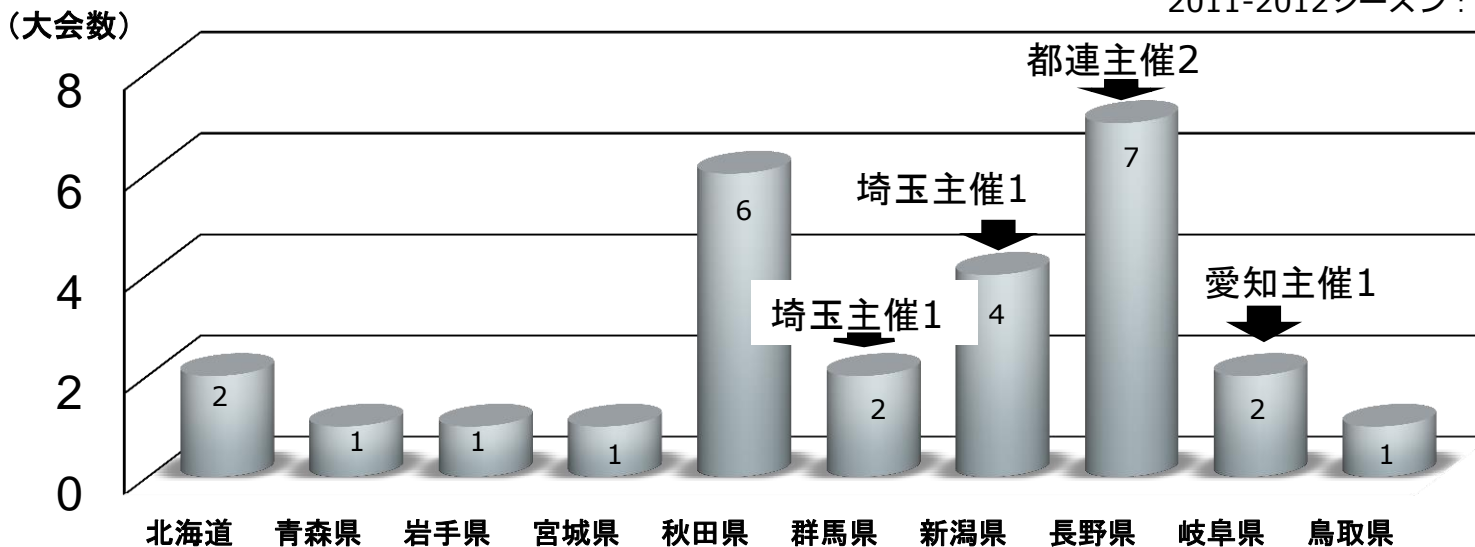


シーズン別 マスターズ大会数

※大会中止

2010-2011シーズン：3大会

2011-2012シーズン：1大会



2012-2013シーズン マスターズ大会 都道府県別 開催数

【目的】

- 生涯スポーツとしてスキーが発展，成熟するためには，マスターズスキー選手の全体像（競技活動、身体機能、精神健康の状況およびそれらの要因）を多角的に明らかにすることが必要不可欠
- 本研究では，研究の第一歩として，マスターズスキー競技者の性別，年代別，地域別競技人口の特徴を明らかにする。

【方法】



● 使用データ

- SAJから提供された2001/02～2008/09シーズンまでの競技参加者登録データ
- SAJホームページ⇒競技データバンク⇒ポイントリストに掲載されている個人データ
- 生年月日，登録県

● 分析方法

- 登録されている全てのデータを集計し，年代及び地域分布の特徴を分析

「競技人口」＝競技登録者人口

【SAJ公認マスターズスキー競技会】

● 参加資格

- 当該年度のSAJ会員登録及び競技者登録が完了し、SAJ競技者登録番号を取得していなければならない。
- 競技年の12月31日までに満30歳以上でなければならない。
- 健康診断を受け、健康である者でなければならない。
- スポーツ傷害保険、またはそれに準ずる保健に加入していなければならない。
- 都道府県スキー連盟が推薦した者でなければならない。

● 組別及びグループ

- A男子：30歳代、35歳代、40歳代、45歳代、50歳代、55歳代
- B男子：60歳代、65歳代、70歳代、75歳代、80歳代、85歳以上
- C女子：30歳代、35歳代、40歳代、45歳代、50歳代、55歳代、60歳代、65歳代、70歳代、75歳代、80歳代、85歳以上

【結果】

- 図1. 競技者人口の推移
- 図2. 年代別競技者人口の推移 (%)
- 図3. 競技者人口の県別推移（上位10県）

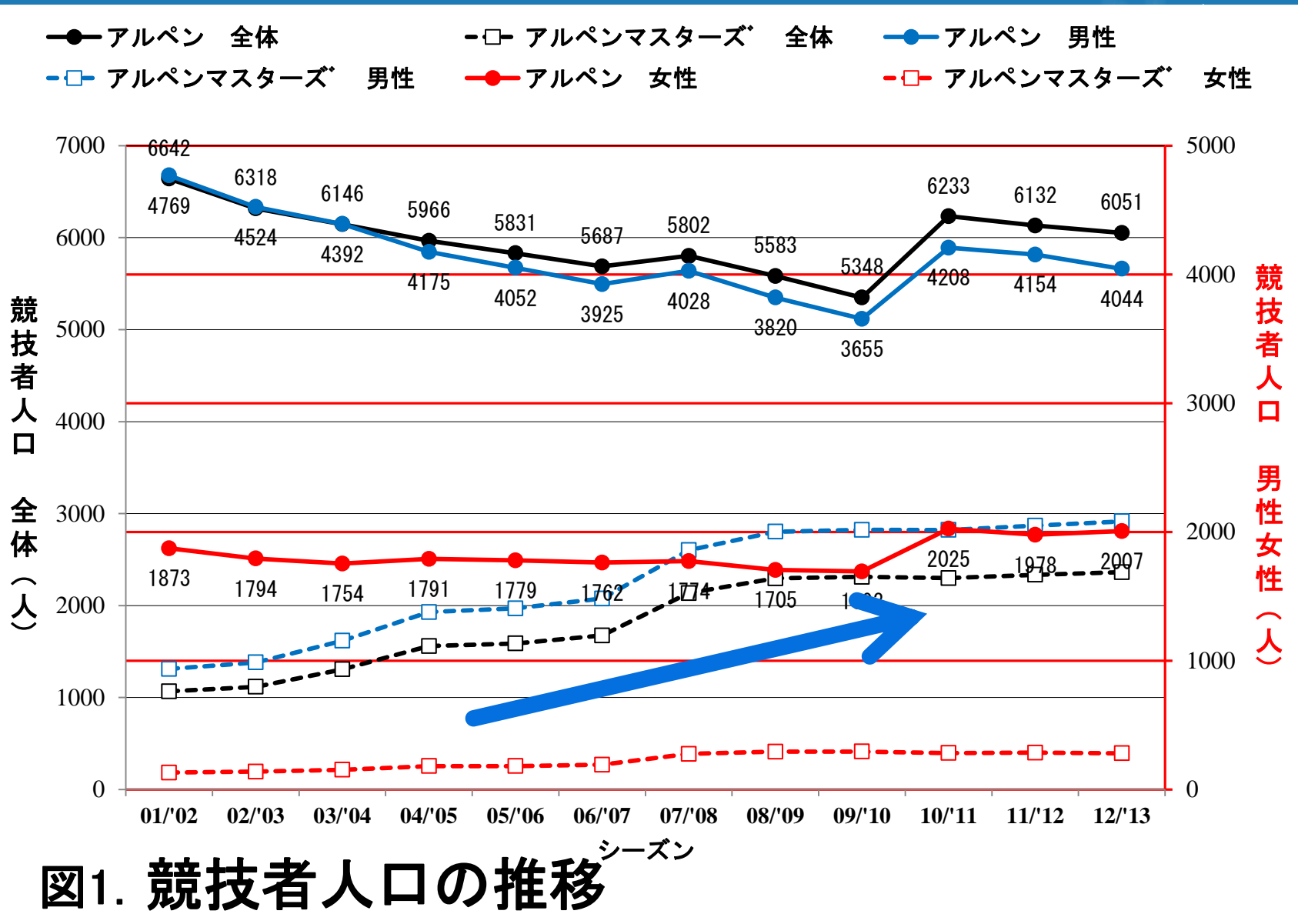


図1. 競技者人口の推移

- 01/02シーズンマスターズスキー人口は1067名、12/13シーズンには2363名と約2.2倍
- アルペン競技人口に対するマスターズスキー競技人口は、01/02シーズンは約16%、12/13シーズンには約40%と、競技人口の拡大が伺われる

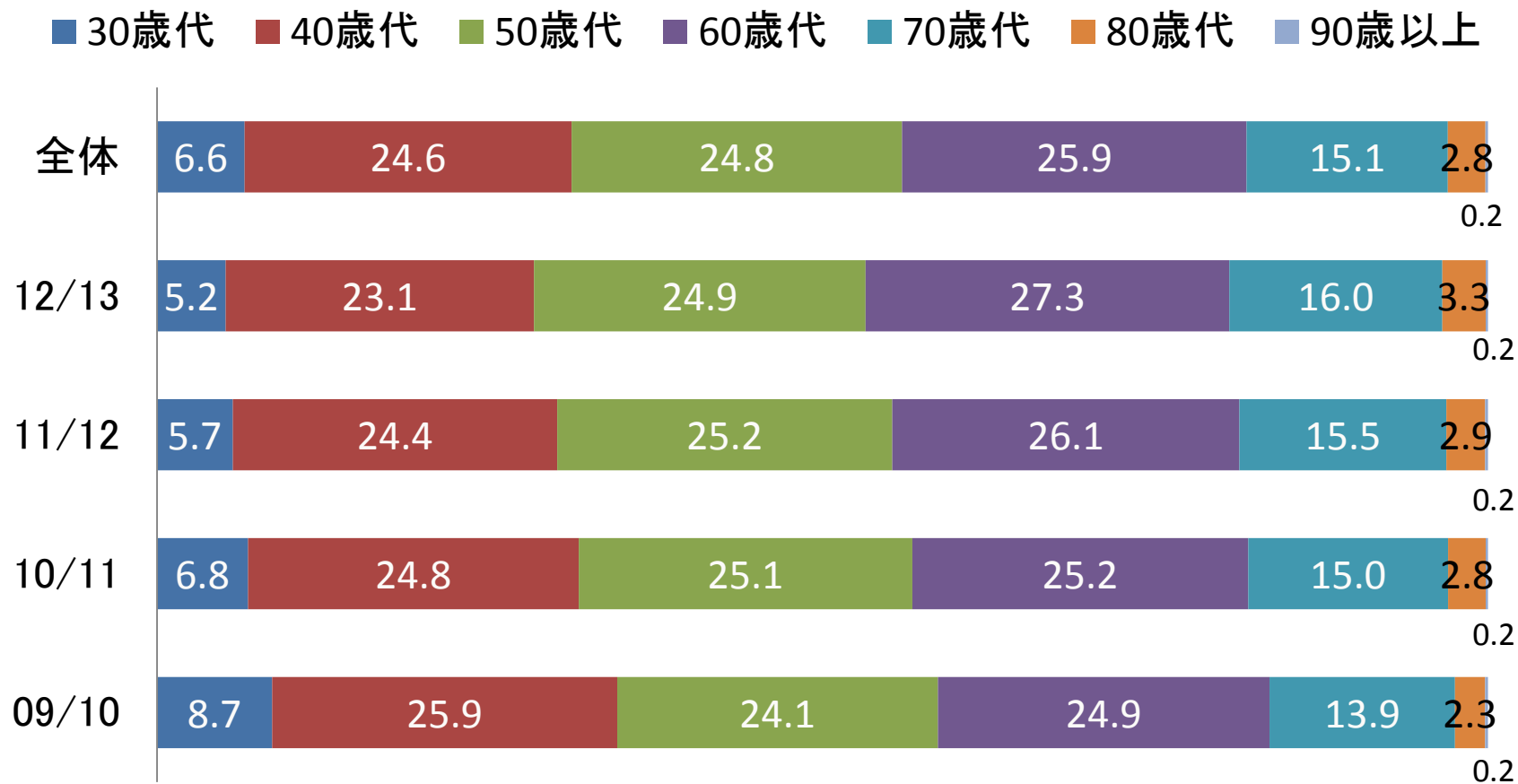


図2. 年代別競技者人口の推移(%)

- 30歳代の割合は40～70歳代に比べ少なく、競技の中心は40～60歳代である

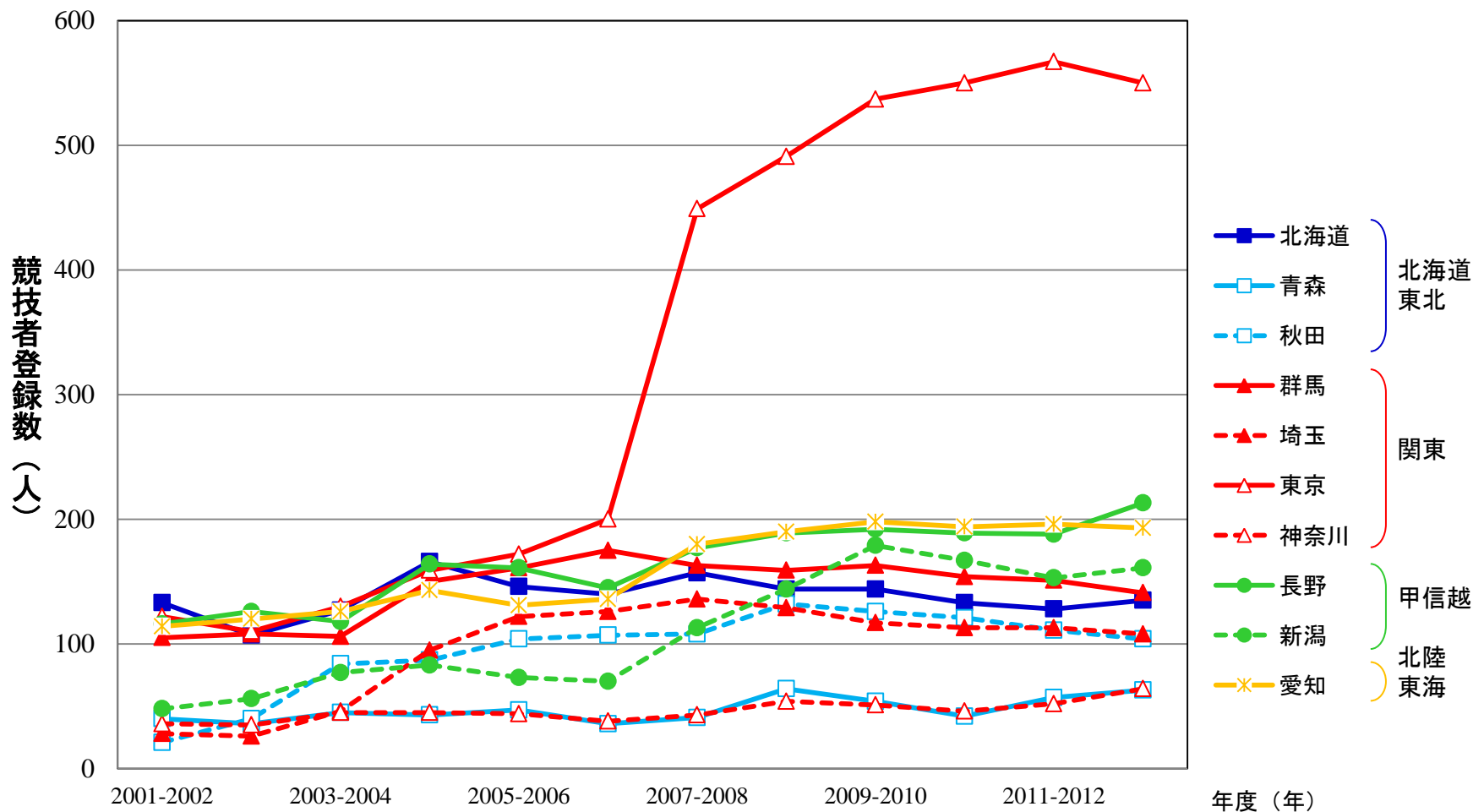


図3. 競技者人口の県別推移 (上位10県)

- どの県も競技人口が漸増, 07/08シーズン, 東京都の競技人口が急増
- ここ数シーズンは, 東京, 長野, 愛知が競技人口の多いトップ3
- 北海道は競技人口の変化が少ない

【まとめ】



- 競技人口
 - アルペン競技人口は過去10年間で約10%減少（約6000人）
 - マスターズスキー競技人口はここ10年間で2.2倍
 - 女子の競技人口は男子の11%程度
- 年代の特徴
 - 競技の中心は40～60歳代だが，70歳代も15%
- 地域別特徴
 - 多くの県で競技人口が漸増
 - 07/08シーズン，東京都の競技人口が急増
 - 競技人口の多い10県のうち，半数がいわゆる「雪なし県」



【今後の課題】



- 大会の観戦
- マスターズスキー競技人口多い県スキー連盟へのヒアリング（競技人口増加に向けた取り組みなど）
- マスターズスキー選手の参加動機，目的意識，スポーツ価値意識などと，性別，年代別，地域別，競技レベル，属性等の要因との関係を明らかにする。

